

1 目的

本地域は農業が基幹産業であるが、入学生の多くは第二種兼業農家・非農家（84%）であり、農業体験が少ないことが予想される。しかし、ほとんどの生徒は農業に興味・関心を持ったことを入学の動機にあげている。

このような現状から、地域農業の実態を把握させるための視察研修や職場体験学習等は就農意欲の醸成とともに教育的効果が高いものとする。



J A 実習（肥育センター）

2 実施状況

(1) J A 実習（職場体験学習）

生物生産科1年生38人が、5日間の日程で種子屋久農業協同組合の各事業所および関連機関で職場体験学習を行った。農業関連企業での体験学習を通して、農業に対する理解が深まり、より興味・関心を抱くことができた。

(2) 島内視察研修

生物生産科2年生29人が、島内の先進的な農家および施設を見学した。先進的な農家や各施設の取組を目の当たりにし、地域農業の現状や先進的な取組について理解を深めることができた。



島内視察研修（安納芋ブランド推進本部）

(3) 島外視察研修

将来、就農や農業大学校への進学を目指す生徒が1泊2日の日程で農業大学校や島外の先進農家を視察した。農業への興味・関心がより一層高まり、進路実現に向けての意欲を喚起する機会となった。



島外視察研修（農業大学校）

3 今後の課題、取組

本年度の農業に関する進路実績は、農業大学校進学者4人、農業関連企業就職者5人であった。本事業を継続活用することで多くの有意義な視察や研修を実施できた成果である。今後も事業内容の充実を図り、地域農業を支える人材育成に尽力していきたい。